

令和4年度 第2回学校関係者評価委員会

日 時：令和5年3月24日（金）19：00～19：50

場 所：長崎医療技術専門学校 会議室

出席者：長尾 博，有福浩二，大坪 健，吉岡正恒，栗田千栄

分部哲秋，韋 傳春，林勇一郎，荒木一博，岩永隆之，早野和之

欠席者：なし

座 長：韋

1. 校長挨拶

国家試験合格発表の結果について ※（ ）内は全国

PT：新卒 88.6%(94.9%)、全体 90.5%(87.4%)、既卒者は全員合格

OT：新卒 100.0%(91.3%)、全体 89.5%(83.8%)

入学者の状況

最終的に理学療法学科 46 名、作業療法学科 32 名入学予定となった。

2. 出席者紹介

3. 開会

当委員会第6条の規定による出席数を満たしており、本委員会は適切に成立していることを確認する。

4. 委員長選出

委員長は小林小夜子先生ですすめさせて頂く。

5. 前回会議後の報告

韋）保護者アンケートからの意見への対応

- ・アンケートの結果と対応をホームページに掲載している。
- ・広報誌 POTNurtuert(第8号)発行。第9号は5月に発行予定。

6. 審議事項

『令和4年度 学校自己評価結果について』（別紙参照）

岩永）過去5年分の平均値を一覧にしている。コメントは今年度の意見である。年度ごとの平均はここ3年3.4と横ばいである。10項目あるがそれぞれの項目の平均も出している。目立った変化はないが、(4)学修成果の「退学率の低減が図られているか」が2.9と低下している。コメントでも「退学率を下げるための努力はしているが入学者の意識の低さから退学率は上がっている」「教員の対応が追い付いていない、マンパワー不足の印象」との意見も出ている。また、(8)財務が少し改善しているところが、今回の特徴かと思う。

財務については、副校長が予算や年次計画を専門性を生かした優先順位の検討や、協力的な事務長との連携で、教員も動きやすくなったと感じる。

退学者数が、今年度は15名いた。令和2・3年度はそれぞれ11名であり、増えている。退学理由としては、成績(9件)・意欲(8件)・進路変更(9件)が多く、体調不良(精神面含む)が4件、その他(2件)であった。出身高校による傾向はみられなかった。勉強が大変でついていけず、意欲が低下し、本当は親が薦めたから来たという学生が非常に多い印象である。なので、成績・意欲・進路変更については、スタートは成績不良が影響しているように感じる。やはり学習習慣というか、学習をした経験のない・どうやって授業を聞いたらよいかわからない学生

が増え、結果成績が取れない、勉強をしたくない、本当は違ったということにつながっている。勉強ができない幼さがあるが、多感な時期でもあり、友人関係や恋愛などもあるのではないかと推測する。その現象として、成績もよく欠席も少ない学生が突然辞めていくケースがあるのも事実である。その点については、スクールカウンセラーに上手につなげて引き出せないかと感じている。また、新入生の入学前オリエンテーションを先日行ったが、「オリエンテーションを受けて自分は合わないと感じたので入学を辞退します」という反応があった。

心構えなどが未熟な学生が多くこのような結果につながっていることを教員も感じている。

小林) 退学者数と理由の数が合わないのは、複数回答があるということでしょうか。

岩永) そのとおりである。

小林) 退学した時期について尋ねたい。

岩永) ほとんどの場合、休学を介して退学となるため年度末に届けが出ている。それ以外では、繊細な学生が前期や早い時期に決断することがある。

章) 3名が前期のうちに退学を申し出ている。また、後期は留年を機に退学するケースもある。

小林) 休学をしようかなと考えるのは前期のうちなのか。

岩永) 早い時期が増えてきている印象である。定期試験が一つのハードルになっているようで、テスト前に無理だと判断し辞める学生もいる。

有福) 休学からの復帰数と、退学する学年の傾向はどうか。

林) 退学者 15 名中 8 名は 1 年生であり、半数以上が 1 年生である。時期については、令和 3 年度以前は 2/9 位が前期退学か休学、令和 3・4 年度は半数が前期位から意向が出てきて、とりあえず後期休学になるケースが多い。昨年位から、決断が速いというか落ち込んでしまう学生が増えている傾向がある。休学からの復学は、今のところ 2 名のみである。

栗田) 保護者としては国家試験の結果がどうだったか知りたかったので提示していただきよかった。ただ 4) 就職率の向上が図られているのかで、県内就職が難しくなっているとのコメントがあるが、今回の卒業生の状況はどうか。

岩永) 就職面接予定と結果待ちが数名いるが、他は就職した。県外率は少し増えている。

荒木) 学生状況報告の資料に県内・県外の主な就職先を掲載している。例年に比べると県外の就職が多くなっている。

栗田) 実習先に就職する率も増えているとかあるのか。

荒木) 実習でお世話になったところで働きたいというケースもあれば、他のところを選ぶケースもある。

章) 国家試験の合格が分かってから動こうと考える学生もあり、就職活動が遅くなるケースもある。就職先がなくて遅くなっているわけではない。

吉岡) PT と OT の退学の割合と、休学中の学生への対応はどうなっているのか。

岩永) 退学の数としてはほぼ同じ位である。ただ PT の方が母数が多いので、OT の方が悩みを持っている比率が多少多いのではなかろうか。

林) PT が多い年もあれば、OT が多い年もあり、交互にみられている。

岩永) 休学者の対応としては、復学に不安がある学生は復学少し前から登校し教員がかかわり学習を始めている。国家試験に落ちた学生については、4 月から国家試験に向けたプログラム(無償)を組み、月に 1~2 回登校し学習に取り組む予定である。

『令和 4 年度学校行事の振り返りと令和 5 年度の計画について』

荒木) 《外部機関との連携》：長崎警察署による生活安全指導、長崎市廃棄物対策課の話、ヤングハローワークによる就職セミナー、長崎市地域保健課によるゲートキーパー養成講座を例年通り実施した。成人年齢 18 歳引き下げに伴い新しい企画としてクレジットや金銭トラブルや詐欺などに巻き込まれないように長崎市消費者センターによる出前講座を取り入れた。

《学生行事》：障がい者スポーツを取り入れたイギセンピックが 3 年ぶりに開催できた。

《教員による学生支援など》：授業前の換気のアナウンスや昼食時の校内巡視による指導など感染対策に力を入れた。校内清掃もクリーン・デイを設け重点指導を行った。また、バイク通学は敷地内駐輪可能となり一緒に敷地内を回り構内での安全運転などの指導を行った。

《今年度の卒業予定者の就職先一覧》数名を除き、ほぼ県内外に就職が決まっている。

《令和 5 年度の行事予定》：今年度と同じような内容を実施予定である。学年を超えた交流を目的に「医技専さるく」を 4 月 22 日に、新型コロナで数年間実施できなかった 1 年生の横のつながりを深める「交流会」を 5 月 26 日に日帰りで実施予定である。また専修学校各種学校スポーツ交流大会については、応援も含めて参加できるのではないかと考えている。

《スクールカウンセラーの実績》：実績として 3 年分をまとめた。毎週月曜日に外部のカウンセラーに来ていただき、放課後から 19 時くらいの時間に対応してもらっている。相談がなくても部屋に待機してもらうようにしている。初回面談は、1 年生を対象に全員面談を実施している。個別面談は、学生本人が希望した面談である。UPI(健康調査)後の面談は、今年度後期に初めて実施したが、健康調査アンケートを基にカウンセラーが気になる学生を選出し面談を行ったものである。

また、個別面談の月別相談件数もまとめた。この 2 年間で件数も増えてきている。時期にはばらつきがあるが 6 月から 12 月に多く、一人が数回面談を希望することもある。

大坪) 就職先の一覧で OT の県内は身体障害領域がほとんどを占めているようだが、その理由はあるのか。

荒木) 他にも県内の精神科などからも求人は来ていたが、学生が希望しなかった状況である。また、15 名しか卒業生がいなかったこともある。

大坪) 学生指導をしていた際に進路の希望を聞くと精神科が多かった。そのイメージがあったので意外に感じた。

荒木) 新型コロナの影響もあったかもしれない。精神科では集団を扱うことが多く学生が実習することを拒まれる施設が多く、そのため身体障害系の施設での実習に置き換わったことも背景にあるかもしれない。

早野) 精神科を希望してても、実際に実習に行けず身体障害系に転換した学生もいる。また地元でと考えている学生が、就職活動をするタイミングに精神科の求人が出てなくて、身体障害系に転換したケースもある。

有福) 車とバイク通学の許可の申請基準みたいなものはあるのか。

荒木) 車については、近隣の駐車場を契約できたら OK としている。ただし、友人の同乗や申請者以外の運転は禁止している。

バイクについては、構内に駐輪場所を設定し、過去一年以内に免許がないこと、任意保険に加入していることを確認している。規定を読ませて口頭試問のテストを行ったうえで許可を出すようにしている。また、敷地内の通路での注意地点などを一緒に巡り指導している。現在 10 台を超える利用者がいる。

韋）これまでは事故の可能性や近隣への迷惑を考え禁止していたが、利便性や学習時間の確保という意味で許可するようになった。

大坪）退学率の軽減の項目の中で、教員の対応がついていけないやマンパワー不足というコメントがあるが、次年度の学生数が増えるということだが、マンパワー不足についてどのような対策を考えているのか。

岩永）学習支援については検討課題であるが、できるだけ個別対応できるように、学習方法を踏まえ、授業の受け方の指導などに力を入れていこうと考えている。また、マンパワーについて教員増は見込めないためシビアな問題であり、学生への周知の仕方も ICT の活用と紙媒体（書籍等）の大切さを振り返りながら、教員の頑張りも含めて検討していきたい。

林）実際マンパワー不足は変えれないので、初学年次にどれくらい対応できるかが重要だと考えている。今までも学生対応に力を注いでいたが、3 学年にそれぞれ満遍なく注いでいたのが盲点であった。一年次に学習習慣や学習方法を身に付けさせるかを重点的に行っていこうと考えている。また、定期試験後に振り返りを行う日程をあらかじめ予定に入れ、時間割に組み込むことを考えている。

荒木）退学者を減らすというのが大きな問題なので、どうすくい上げるかを検討していきたい。

栗田）進級できなかった学生が今年度も結構いたのか。

林）1 年から 2 年に上がれなかった学生が 8 名、2 年から 3 年に上がれなかった学生が 7 名である。今年は特に多かった。

栗田）そのような学生が退学予備軍になるのだろうが、先生方も大変になってくると感じた。

分部）学園としては、正規教員の補充は難しいが、支援員の導入検討は可能と考えているが、専門職では難しいのではないか。

韋）高校では学習支援員を導入しているが、専門学校ではなかなかいない。限られたマンパワーで工夫して成果を出していきたいと思う。

小林）正規職員の増員は難しければ、パート職員の採用などを検討されてはどうか。休日出勤で振休をとる必要が出てもなかなか取れないこともあると思うので、資格を持ったパート職員がいれば実技の補助・指導なども可能になる。職員がきちんと振休を取れる体制が取れば、精神的・肉体的にも余裕ができ、学生指導や対応にも導きやすくなるのではなかろうか。

7. 総評

小林）昔に比べ、何でもしてもらえて当たり前、自分で調べようとしないう学生が増えている。大切なことは、わからないことを教えてあげることがその学生にとって血となり肉となることに繋がるということである。就職しても「習っていない」「こういう仕事をするとは思ってなかった」とすぐ辞めてしまうので、教育をどうとらえそれを学生にどう伝えていくか、どういう学生を育てていくかを明確にし、保護者を含め全体で共有していくことが大切だと考える。

8. 謝辞

分部）大切なご意見に感謝する。今回いただいた意見を今後の教育方針に活かしていきたい。

9. 閉会

韋）これを持ちまして第 2 回学校関係者評価委員会を閉会する。

次回の学校関係者評価委員会は、令和 5 年 9 月 29 日（金）19：00 を予定する。